

園長だより NO121

7年度も残すところ1か月ほど、毎年のように年度の初めには「あれしよう、これしよう」と目標や課題を立てて取り組もうと考えをめぐらす、月日の経つのは早いものでほとんど取り組めないまま1年が終わってしまう。

この立場で年数を重ねていくと園長職以外に充て職といわれる仕事が舞い込んできます。現在、数職兼任しているが、しゃなりしゃなりと携わり、そろそろ任期が終わるものもあります。その一つに3月末に任期があける千葉県保育協議会（常任委員）があります。研修委員会に所属し研修の運営企画などを行っていました。正直、誰もがやりたくない役割ともいわれていますが、やってみると多くの人と出会い、学びの場に立ち合い、自らも刺激をうけ学ばせていただく機会があり、ありがたいという気持ちを抱くことができました。

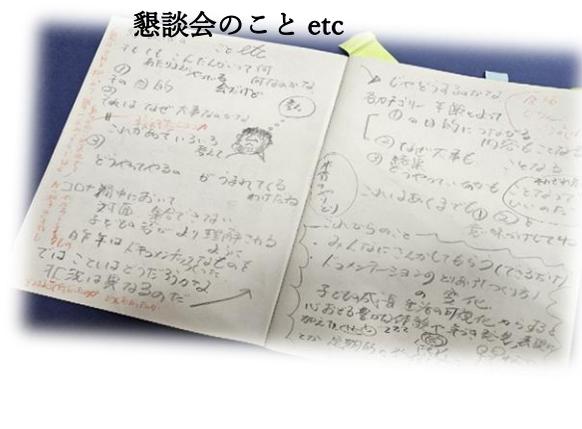
雲の上にいるような、理想の保育を実現している方との出会いや共同の作業、関係すらできないだろうと思っていた先生方との対話など貴重な時間を持つことがこの上ない喜びであり、自己の器の狭さを考え、感覚を変化させていくことの必要性を学ばせていただいた、とかく園長は井の中の蛙であり、園では偉らそうに振る舞い、外部からの意見など聞こうとしない、我が道を行くタイプが多いともいわれる。園の運営業務は多岐にわたり煩雑にあり、業務に追われ園内から出られないという方も多く、人それぞれだが園長職は

忙しい日々が続くともいわれている。そんな世間の園長と異なり、程よく園外に活動拠点があることは凝り固まる頭、身体には柔軟になるチャンスを与えてくれる。多くの学びがあったわりには自園に還元できることの術を私がおもっていないだけに申し訳なく思うことも多くあり、少しでも良い循環が生まれるよう取り組んでいきたい。

ネタ帳

ネタ帳と聞くと芸人さんのこと思い浮かべるでしょうか？漫才、コントの内容、思い浮かんだお笑いネタをノートにメモしていくもの・・・私にもネタ帳があります。言い換えれば思ったことがあれば文字にしてメモしていく、保育の中での課題や問題、実践している保育への希望や願い、ときにはだらだらと愚痴を書き記したりするノートです。年間で4～5冊ぐらいになります。時折、読み返したりしますがすべてが過去の事、実現できないことも多くあり、読み返すと定期的にシュレッダーされ処分される運びになります。

最近、数年前のネタ帳を読みなおし、現在進行形のものもあるので処分前に園長だよりにて転記してみます。



そもそも 懇談会って何？ 何なのかな
当たり前に やっている会だけ

- ① その目的は
- ② それはなぜ 大事なのかな
これが あって いろいろ考えて
- ③ どうやってやるの がうまれてくるわけだね

コロナ禍中において、対面、集合できない、子どもの姿がより理解されるように昨年はドキュメンチックなものをつくったでは、ことしはどうだろうか？

状況はことなるのだ
じゃ どうするのかな
各カテゴリー、年齢によって

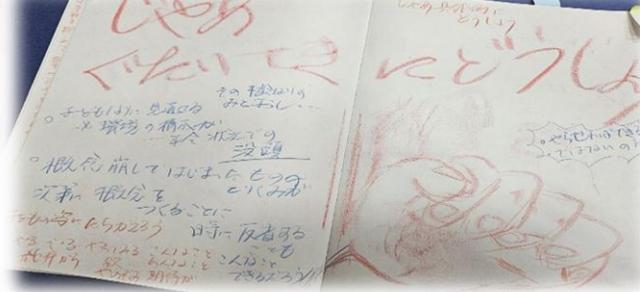
- ① の目的に繋がる内容も異なる
- ② なぜ 大事も 異なる
- ③ 結果、どうやってやるのかも異なる
それぞれ違っていい 異なっている

これからのこと
みんなに参加してもらおう（できるだけ）
ドキュメンテーションの取り上げ（作り方）
の変化

子どもの成長、生活の可視化からすると心おどる豊かな体験や気づきや発見、表現に加えて 日常のこころ動かされるものを定期的に発信しなきゃだよ

とネタ帳に書き記している

コロナで思うように対話できず、保育も本



来の姿からかけ離れた状況で行われていたやっとな、コロナ禍中から徐々にか解放されてきた時期でのメモです。

いったん止まった時間が動き出し、関係性の内容を持たせていく必要性をひしひしと感じている時期だけに懇談会の在り方に自身がフォーカスしたと考えます。

コミュニケーションが大事というけど、はたしてそれでいいの？と疑問をもっていた時期です。自分の気持ちを抑えて相手に合わすのではなく自分の思いが表現でき、且つ相手の気持ちもわかろうとするものにならないものか

当時、懇談会は数名しか参加しないクラスもあった。懇談会というより個人面談ですかというほど関心が薄らいでいた時期でした。コロナなどいろいろな背景があったことも確かですがあまりにも関心の薄さに自省の念が噴出していました。

で、じゃあ どうする みんなが参加していただくために こちらも考えねばなりません。

当時、ネタ帳にいろいろと書き記していたが職員に思いは伝えていない。1月にクラス懇談会がありましたが 保護者の皆様は参加されどう感じられたのでしょうか

まだこの取り組みは現在進行形です。よりよくなる試みを今後も考え続け取り組み積極的に参加できる場づくりを期待しています。考え続けていくことが保育なのです

（おおぞら保育園 園長 廣部信隆）